図書室だより6月

令和５年６月12日(月)
伊達中学校　図書室
第５号　文責　阿部翔子

伊達中学校で行っている「全校一斉読書」の取り組みとして、先日みなさんに書いてもらった「私の一行」感想文コンクールの結果が出ました。今回は、結果発表と最優秀賞１名と優秀賞２名の感想文を紹介します。

第１回「私の一行」感想文コンクール結果発表

最優秀賞

３年３組　佐藤　栞さん（番号④）

優秀賞

・１年３組　立山　楓子さん（番号⑧）
・２年２組　数又　南さん（番号⑥）

優良賞

・２年３組　鈴木　千夏さん（番号⑨）
・３年２組　鈴木　亮志さん（番号②）

佳作

・１年２組　神田　ゆずねさん(番号③)
・１年３組　小手森　葵さん(番号⑤)
・２年２組　熊谷　維太郎さん(番号①)
・３年２組　長谷川　咲波さん(番号⑦)

最優秀賞・優秀賞作品

最優秀賞　３年３組　佐藤　栞

「社会を機械にたとえれば、お金は潤滑油ですし、生物にたとえれば血液です。」

この世界ではお金が全てだ。誰かに優しくすることも、助けることも、お金がもらえるから、みんな自分の損得を計算しながら生きている。私たちの社会にだってお金はあるけれど、ここまでお金にとらわれている人は少ない。だからか、この物語の世界が私には寂しく映る。喜びも悲しみも後悔も、その時限りの感情がお金に代えられていることが不気味に思えた。この心が動かない世界に住む人々は、いったいどんな瞳をしているのだろう。

優秀賞　１年３組　立山　楓子

「そして、銀貨を一枚とりだしたけど、あたしはしらんかおをした。だって相場があるもの。すると、おばあさんはしぶしぶもう一枚だした。あたしは、にこにこして席をたった。」

この物語は、とにかくお金がすべてという世界です。主人公の少女は、おばあさんに席をゆずることさえ、お金の利益がなければやりません。「マネー・エイジ」の世界には絶対に行きたくないなぁと思いました。思いやりも愛も、すべてお金がなければ動かないからです。おこづかいをもらわないとお手伝いさえしない私には言えませんが、思いやりは無料にしたいです。

優秀賞　２年２組　数又　南

「そして、ずっと未来の子どもは、どんな夢を見たがるのかしら。」

世の中はお金が全てなのだろうか。今の世界はウクライナで戦争が起こったり、日本でもいろいろな犯罪が起きたり、暗いニュースばかりだ。生活に苦しんでいる人もいる。お金は大切だが、私はそれ以上に「命」、生きることが大切だと思う。これからはみんなで助け合い、明るいニュースが広がってほしい。人々がずっと幸せでいてほしいからこの一行を選んだ。